

上野総合市民病院だより

◆透析合併症の予防と生活の質の向上をめざして

透析治療を長く続けていると、皮膚のかゆみや関節の痛みに悩まされることがあります。これは特定の老廃物が体に蓄積することで、皮膚のかゆみや関節痛を引き起こすからだと考えられています。

当院では、こうした合併症を予防、軽減するために「オンラインHDF（血液透析濾過）」という治療を導入しています。この治療は血液透析を行いながらきれいな水分を体内に補給し、たくさんの水を使って濾過することで老廃物を除去します。そのため、従来の透析では取り除きにくかった老廃物も効果的に除去することが期待できます。

この治療では大量の「水」を使用するため、水の安全性は非常に大切です。治療で使われる水は専用の浄水装置を使って、不純物を徹底的に取り除いた安全性の高い水を病院内で精製しています。臨床工学技士は、これらの装置の管理を担当し、毎日の点検と定期的な検査を通して水質が適切に保たれてい

るかをチェックしています。

こうした継続的な点検や整備をすることで、医療機器の性能を維持し、安全な治療環境を支えるのが、臨床工学技士の使命の一つです。これからも適切な医療機器管理と質の高い治療の提供を通じて、伊賀地域の医療に貢献していきます。

(臨床工学課 吉田 邦久)



水質確認の様子

明日に向かって～差別をなくしていくために～

「おもてなし」を形に～誰もが観光を楽しめる伊賀へ～ ー観光振興課ー

私たちの住む伊賀市には、毎年多くの外国人観光客が訪れています。忍者の歴史や伊賀上野城の雄大な景色に心を躍らせる旅行者を出迎えるために、私たちが真っ先に大切にするのは「おもてなしの心」です。しかし、誰にとってもやさしい受入態勢は、「おもてなしの心」という目に見えないものに加え、誰もが安心して観光できる「環境整備」がともなってこそ完成するのではないのでしょうか。

例えば、まちなかやお城を散策する場面を想像してみてください。そこで大切になるのが、案内看板の「分かりやすさ」です。多言語での表記はもちろん、言葉が分からなくてもひとめで目的地やトイレの場所などが理解できる図記号（ピクトグラム）は欠かせません。私たちが海外を旅するときに、現地の言葉が読めなくても、日本語や英語の表記、分か

りやすいマークがあるだけで安心します。誰にとっても直感的に伝わるデザインは、誰もが自由に散策を楽しむための「共通言語」になります。

そして、この環境整備がもたらす恩恵は、決して外国人観光客だけにとどまりません。分かりやすいマークや大きな文字での案内は、こどもから高齢者、視覚に不安がある人にとっても、「観光のしやすさ」につながります。外国人観光客を意識した取り組みによって、まちは「誰もが自分らしく動けるユニバーサルデザインなまち」へと進化します。

「おもてなしの心」に「わかりやすい表記」を添えて、伊賀市を訪れる人、住む人すべてにとって心地よいまちを、市民の皆さんと一緒に築いていきます。



■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ



伊賀市の文化財 164

絹本着色藤堂高虎像

現在放送中のNHK大河ドラマ「豊臣兄弟!」で、伊賀国を治めた大名藤堂高虎が登場します。高虎は、弘治2(1556)年、近江国藤堂村(現在の滋賀県甲良町)の地侍藤堂虎高の次男として生まれました。天正元(1573)年、主君であった浅井氏が滅び、羽柴秀吉がその旧領を預かると、仕える主人のなかった高虎は秀吉の弟秀長の家臣となりました。秀長の死後は、秀吉や徳川家康に仕え、慶長13(1608)年に伊予国から伊賀・伊勢両国へ転封となりました。

藤堂藩の資料『公室年譜略』によると、高虎は体格に恵まれ、身長は六尺二寸(約188cm)もあったといわれています。顔立ちは柔和で、鼻が高く、耳も大きかったと記されています。この雄姿を今に伝えるのが西蓮寺に残る高虎の肖像画です。

肖像は、白髪に黒の冠をつけた老齢期の姿で描かれています。唐草文様の地に家紋の葛紋を散らした黒の位袍を身にまとった高虎は、浅葱色の指貫を履き、佩刀しています。右手には木目の描かれた笏を構え、金泥で飾られた水墨山水図を背に上畳に胡座する様子が表現されています。

また、金彩で魔よけの効果があるといわれる麻葉つなぎと赤丸に葛紋が描かれた幔幕は御簾と共に巻き上げられ、像主である高虎はその内側に座っています。これは、桃山時代から江戸時代初期の秀吉や家康らの肖像画と共通する図様です。

軸の仕立は縦100cm、横60.6cmで、画面上には金雲とともに徳川家康・秀忠・家光の三代にわたる帰依を受け、徳川家の菩提寺である寛永寺の第一世となった天台僧天海の賛文があります。賛文に年号は記されていませんが、高虎の亡くなった寛永7(1630)年から、天海が亡くなる同20(1643)年までの間に書かれたものとみられます。



▲絹本着色藤堂高虎像

文化財課 ☎ 22-9678 FAX 22-9667



「イガプロ」とは、「イガ」と「プロダクト(製品)」、「プロフェッショナル(専門家)」などさまざまな「プロ」を掛け合わせた造語です。

中外医薬生産株式会社

当社は創業106年の歴史を持ち、OTC医薬品^{*1}の研究開発から製造、品質保証まで一貫して行う製薬メーカーです。大手製薬会社との製品の共同開発に力を入れ、ラボ試作・特許調査、大型スケールでの工業化、試験法の設計から携わっています。皆さんがCMやドラッグストアでよく見かけるブランド製品の開発も多く手掛けています。

2026年12月には、OTC医薬品の安定供給体制整備のため「みどりヶ丘第三工場」を竣工予定です。現在、三重大学との共同研究により、伊賀流忍者にも身近な薬用植物由来の乳酸菌開発にも取り組んでいます。

人生100年時代と言われる現代、生活の質(QOL^{*2})が重要視されています。私たちは医薬品を通じて人々のQOL向上に貢献するため、社員一丸となって取り組んでいます。これは企業スローガン「医薬のチカラで、笑顔を。」に込められた想いにもつながります。世の中の変化に柔軟に対応しながら、常にチャレンジを続ける企業でありたいと考えています。

- *1 処方箋なしで薬局やドラッグストアなどで購入できる医薬品のこと
- *2 Quality Of Life (クオリティオブライフ)

◆社員のコメント

医薬品と聞くと少し堅いイメージがあるかもしれませんが、職場環境はとてアットホームです。若い社員が多く、恒例行事の夏祭り・餅つき大会や、有志でのスポーツレクリエーション、地域イベントへの出展など、年齢・部署を越えたコミュニケーションが活発です。



本社 ゆめぼりす工場



みどりヶ丘第三工場 (2026年12月完成予定)

◆会社概要

【創業】 1919年10月
【所在地】 ゆめが丘 7-5-5
【従業員数】 244人
【事業概要】

医薬品・医薬部外品及び清涼飲料水等の製造販売

【連絡先】 ☎ 21-0120 (代)

<https://www.chugai-iyaku.co.jp/>



問 産業政策課 ☎ 22-9727 FAX 22-9695